

(別添4)

【大分県 杵築市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末や校内ネットワークの整備を中心とするICT環境を使用して「個別最適な学び」としてAIドリルを活用し、また、「協働的な学び」として授業支援ツールを導入している。将来の予想が難しい社会において、情報を活用し何が重要で、何が必要かを主体的に考え、見出すことは必要である。これらについてデジタルの優位性を生かしながら、児童生徒が学習の方法やツールなどを自分で選択し、多様な他者と協働しながら学習者主体の学びを検討したい。デジタル情報を活用しながら、情報化社会を生き抜く児童生徒のために情報活用能力の推進を図っていく。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想に基づきこれまで整備、導入等行ってきた。これまでに児童生徒1人1台端末の実現や、校内ネットワークの整備、家庭への持ち帰りへの対応に加え、AIドリルや授業支援ツールの導入などを行ってきた。授業への導入を行い、授業の形も変わったものや、教職員への働き方改革のきっかけになったものもある。コロナ禍をきっかけに多くのICT機器やツールが導入され、活用を進めてきたが、機器の不具合やネットワークの遅延等確認されるようになった。日々学校環境の状況確認や定期的な調査等を実施し、適宜対応する必要があるところである。今後は維持管理にも努めていく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

これまで多くの機器やツール等導入してきたが、文部科学省が求める環境には、まだ届いていない部分も多々存在する。1人1台端末の利活用を進める上で、環境整備についても少しずつでも進めていきたいと考えている。

「1人1台端末の積極的活用」を進めるに当たって、いつでも快適に使用出来ることが必要であり、普段から確認を行う必要がある。端末の管理についても適宜確認を行い、いつでも使用出来るよう整えたい。また、教職員への研修も必要となってくる。どのような場面でどのように使用出来るか、アプリ等の変更にも対応したものとしたい。

「個別最適・協働的な学びの充実」を図るため、引き続きAIドリルの活用を続け、「1人1台端末の積極的活用」と共に個別最適な学びを進めていく。また、授業支援ソフトを活用することで、協働的な学びの実現が出来るため、引き続き活用の推進を図っていく。使用頻度や状況等のデータ収集にも努め、使用状況を見ながら助言に努めたい。

「学びの保障」のためには機器の維持管理が大切になってくる。予備端末も常に学校へ配備し、故障やトラブルに対応することが必須であり、今後も進めていく。

引き続き活用していくためには、ICT支援員は切っても切れない存在である。ツール等を導入しただけでは活用は進まないため、ICT支援員が必要であり、教職員に寄り添う必要がある。また、日常的な維持管理にもICT支援員が必要不可欠であることから今後も引き続き活用していく。